コミュニティ・スクール
学校だより

あ　い　お

山口市立秋穂小学校　令和4年 2月 1日

【　学校教育目標　】
《　ふるさとを愛し　学び合い　認め合い
たくましく未来を生き抜く　秋穂っ子の育成　》

夢の実現に向けて

校長　川　本　　卓

先日、本校出身の女子プロゴルファー、木下 彩さんが来校されました。おぼろげながらにでも、将来について考え始める時期に差し掛かっている５，６年生に、夢の実現に向けて大切な「金言」をたくさん話してくださいました。木下さんは、小学校時代からずっと持ち続けていた夢を叶えたということで、子供たちそれぞれにとって、思うところも多かったことだと思います。

小学校時代からの夢を叶えたという木下さんの話を聞いて、私は、ふと、以前担任した二人の教え子のことを思い出しました。（二人とも、この便りで書かせてもらうことは了解済みです。）一人は、小学校３年生の時に担任しました。当時、度々、私のところにやって来ては「私、将来パティシエになるから。その時は、おいしいケーキを焼いてあげるね。」と話していました。彼女は現在、何かの縁か、私の実家のある光市の菓子店に就職して、周辺では少しばかり有名なロールケーキを焼いています。もう一人は、小学校６年生の時に担任した教え子です。彼女は口数が少なく、おとなしい感じの子供でしたが、夢の話をする際や、教室でのフリートークなどでは「将来は、今、自分の髪を切ってくれている人のような、美容師になりたい。」と必ず言っていました。これまた偶然にも、彼女も数年前に「光市」でご主人と美容室を開業しました。二人とも、子供の頃から毎年、年賀状で近況を知らせてくれていたこともあり、夢を叶えるまでの「ストーリー」がよくわかります。くじけそうになったり、周りの人に他の道を提案されたりしても、自分の思いを貫いていった様子や、努力を続けた様子を知って、頑張っているなと感心したり、応援したりしていました。

木下さんも、スランプに陥ったり、プロテストに落ちたりして、ゴルフをやめようと思ったこともあるけれど、夢を叶えるために、あきらめずに頑張ったという話をされていました。苦しい時にどれだけ踏ん張れるか。我々大人にとっても大切なことだなと思いました。

そして、もう一つ感じたのが、お手本になる人や、憧れの人がいることは大事だということです。木下さんは、元プロゴルファーの宮里藍さんを目標にしていたと言われていました。先ほど、例に出した教え子の二人は、「上手にお菓子をつくるお母さん」と「自分の髪を上手に切ってくれる美容師さん」がそれぞれ目標であり、憧れだったようです。コロナ禍で直接、人とかかわることが難しくなっている現在、必然的に、ネットやＳＮＳの中でのつながりが多くなってしまいますが、やはり子供たちにとって「リアルモデル」が身近にいることは、必要かもしれません。そういった意味では、毎日、子供たちと接している我々大人も、よい「モデル」になりたいと思います。

夢の実現に向けて頑張って！